組織行動研究

No. 13

編集後記にかえて

●昨年の後半から今年の前半にかけて，「組織行動」研究にとって，特筆すべきと思われる〝動き〟があった。ひとつは，「産業・組織心理学会」が創設されたことである。昨年の11月15日に第1回大会が開催された。学会事務局は，現在，明治大学（〒101 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学研究棟602号 Tel. 03-296-2044）におかれている。5月15日時点で，231名の有志が会員となっている。

●当該学会は，その設立の趣旨を，①個々人および集団が人間の可能性を基盤として成長し，②効率的であると同時に健康的かつ生きがいのある組織を形成し，③心と行動の統合体として作業を遂行し，④文化的生活者として消費する，ことのできる条件を探究することとし，ちなみに当面，人事・組織行動・作業・消費の4側面に目配りしながら，その活動を推進しようとしている。さて，実際これから，どう〝動い〟ていくか？問題はつねにこれからにある。

●欧米では（というステレオテピックな言いかたに大いなる気色悪さを感じながらも，それでもなお，ある種の羨望感も払拭し得ず，かく申すわけだが），産業・組織心理学の領域は，心理学研究のなかではもっともリーディングな地歩を確立している。ちなみに，研究者の層もすこぶる厚く，そしてその活動は動的また論争的ですらある。そこまでの地歩を，やがてわれわれも克ちとるにいたるか？　産業・組織心理学は，その性質上，現実にあるいは現場にすこぶる密着したかたちで研究活動がなされていく。したがって，現実にどこまで肉迫できるか（現実からどれほど遊離しないか），同時に，現実にどれだけ阿ねないか（現実と自堕落に〝寝ない〟か），この二つのことが，これからの動きを決めていく肝のように，わたしには思える。

●動きのもうひとつは，かねてより地道な活動を続けてきた，名古屋地区在住の有志を母体とした「経営行動科学研究会」（事務局は現在，〒464 名古屋市千種区不老町　名古屋大学教育学部産業心理学教室　Tel. 052-781-5111-(内)2648におかれている）が，この4月に，いよいよ機関雑誌（『経営行動科学』）を発刊させたことである。当面，年2回の刊行を意図している，という。投稿自由（投稿を会員のみに限定していない）というところがいい。要するに，内容次第ということだ。チャレンジングな呼びかけではないか。

●当該研究会は，その活動の目的を，①実証的研究のスキル向上を図る，②データの積み重ねを通じて仮説や理論の修正と発展を図っていく，③実証的研究に裏打ちされた概念や理論や実践的行動の指針を創出する，④データの共有・交換を通じて新しい知識の交流を促進する，ことに求めている。中部日本のこの動きは，やがては日本全土を席捲するにいたるか？ネオンの巷を漂っている感のあるわれら〝東京砂漠〟の住人も，隊列を整えて，砂漠にオアシスをふやすべく，種まきの作業に気を入れねばなるまい。　（南　隆男）

慶應義塾大学産業研究所社会心理学班研究モノグラフ
組織行動研究（第13号）
責任編集　佐野勝男・南　隆男

KEIO STUDIES ON ORGANIZATIONAL BEHAVIOR AND HUMAN PERFORMANCE No. 13
JUNE 1986

発行　〒108 東京都港区三田2—15—45
慶應義塾大学産業研究所
電話 03—(453)—5640(直通)
＜昭和61年6月14日＞

印刷　〒103 東京都中央区八丁堀3-21-3
株式会社国際印刷
電話 03—(553)—2051(代表)
＜昭和61年6月10日＞